3. イエス・キリストについて

（1）キリストの神性

①主イエス・キリストは、完全な神性を有しておられる。

②この方は、常に神であられたし、これからも神であり続けられる。

③この方は、受肉に際しても、神であることをお止めになったわけではない。

※栄化されたからだ

【5】3. イエス・キリストについて

ピリピ2:6-11
6　キリストは、神の御姿であられるのに、 神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
7　ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、 人間と同じようになられました。 人としての姿をもって現れ、
8　自らを低くして、死にまで、 それも十字架の死にまで従われました。
9　それゆえ神は、この方を高く上げて、 すべての名にまさる名を与えられました。
10 それは、イエスの名によって、 天にあるもの、地にあるもの、 地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、
11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、 父なる神に栄光を帰するためです。

○メシアの神性、先住性、永続性を示している

【5】3. イエス・キリストについて

（2）初臨

①主イエス・キリストは、人としては、聖霊によって受胎した処女マリアから誕生された。

②この方は、神性と人性を有しておられるが、この二性は、混じり合うことなく明確に区別されるものである。

③この方に罪は無く、また罪を犯したこともなかった。

【5】3. イエス・キリストについて

受肉

○キリストの二性
・時には神の領域で、時には人性の領域で働き、行動された。
・神としての力を、人間的必要のために用いることはなかった。　※石をパンに
・人でなければ、死ぬことはできない
・神でなければ、人を救うことはできない

○公生涯が終わってからも、メシアの受肉状態は続く

【5】3. イエス・キリストについて

④この方は、すべての人の罪を贖うために十字架上で死に、墓に葬られ、三日目に**栄化されたからだ**で復活された。

【注解】

④栄化されたからだ

・「栄化されたからだ」と言う言葉をわざわざ入れたのは、「蘇生」とは違うと言うことを確認するためである。

・「からだ」と言う言葉を、漢字で書く場合に「身体」と書くと「人間の体」というニュアンスになるため、「体」と言う漢字を使うが、聖書はひらがなで書いているので、ひらがなを採用する。

・「栄化されたからだ」を、「栄光の体」と言うのはオプションとしてはあり得る。英語的に言うと、Glorified bodyである。

【5】3. イエス・キリストについて

・「栄光の体」と言うと、Final Product（最終的な状態）を言っていて、「栄化された」というと死者から蘇ったという動きがニュアンスとしてある。

・元々罪を持っておられないイエス様のことに関して栄化という言葉を使っても良いか、という質問に対しては、「良い」が答えである。

なぜなら、人間の体が一度死んで復活した体はGlorified bodyであるところ、人間イエスにかけて言っているからである。

【5】3. イエス・キリストについて

・2012年のフルクテンバウムセミナー「聖書が教える死後の世界」にて、イエス・キリストが復活した後の40日間は、体に釘の跡があるため、栄光のからだに変えられていないという旨が教えられていた。この点、イエス様は閉め切った部屋に入って来られたということは、体自体が既に栄化されたからだ、多次元の体になっていることを示している。

黙示録の１章では、イエス様が栄光の王として現れており、その時には釘の跡がなくなっているというような説明をすることがあるが、黙示録の１章の言葉全体が非常に象徴的な言葉で主の主権を表している表現になっている。そこを読む限り、釘の跡のことは出てこないし、その発想もない。それはなぜかというと、栄光に焦点が合っているからである。

【5】3. イエス・キリストについて

ところが、黙示録の５章6節に行くと、「ほふられたと見える小羊」（新改訳第３版）という言葉が出てくる。１章も５章も共に考慮しなければならない。イエス様は栄化されたからだを持ってご自身を啓示されたが、それと同時に、それはほふられたと見える小羊でもある。
栄光のイエスだけだと、ほふられたと見えるという言葉の意味が着地しない。以上から、聖書は明確に述べていないが、この言葉から見ると、イエス様は人間性を永遠の世界にまで引き受けておられる人として来られたという愛を表現するために、十字架の愛を記念する釘の跡が永遠に続いていると理解することができる。

つまり、イエス様はご自分の愛を示した記念に、永遠の秩序に至るまで、人間の体を自分の一部とし、しかもその体には釘の跡があるというのが、イエス様の栄光のからだである。

【5】3. イエス・キリストについて

⑤この方は、天に昇り、父なる神の**右の座**に着座された。

右の座

○神の右に座ることは、神と特別な関係にあり、その権威を共有することを象徴
※栄光と名誉の象徴、取次ぎ手としての役割

エペソ1:20-21（詩篇110:1、ヘブル1:3、ローマ8:34)
20 この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、
21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。

【5】3. イエス・キリストについて

⑥この方は、十字架の死を通してすべての人に罪の贖いを提供されたが、この贖いは、**信じる者にのみ適用**されるものである。

信じる者のみに適用

ヨハネ5:24
（ヨハネ3:16-18、ローマ3:22-24、ローマ10:9-10、ヘブル9:28など）

24 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。

【5】3. イエス・キリストについて

（3）現在の奉仕

神であり人である主イエス・キリストは、父なる神の右の座に座し、すべての信者のために大祭司として執りなしをしておられる。

【注解】

・「これから信者になる人たち」のために働いているのは聖霊である。

・大祭司としての主イエス・キリストの役割は、神と信じている人の間に立って執りなしをすることである。

【5】3. イエス・キリストについて

（4）再臨
主イエス・キリスト自身が、教会とイスラエルのために、肉体をもって文字どおり地上に戻って来られる。

【注解】

・「地上再臨」という言葉は、「空中再臨」という言葉との対比で使われる。

・私たちは、空中再臨のことを「携挙」と呼んでいるので、再臨と携挙、という言葉遣いで良い。

・私たちは教会とイスラエルを明確に区別しているので、ここでイスラエルというと現実のイスラエル（アブラハム・イサク・ヤコブの子孫）である。

【5】3. イエス・キリストについて

・ここで「栄光のからだ」ではなく「肉体」という言葉を使っているのは、キリストの再臨を比喩的に解釈する人のことを意識しているからである。

・肉体があるか、比喩的なのかという対比がポイントになっている。

・英語では、再臨のことをBodily Returnと言うが、その場合に、「栄光の」などの修飾語をつけることはない。

神の御計画の全体（概略図）

すでに起こった出来事

現在

これから起こること

～この時代、如何に生きるべきか～

◆福音の三要素　Ⅰコリント15:1-4
1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。
2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。
3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

メシア預言

創世記3：15　原福音
Ⅰ歴代誌17：10-15　ダビデ契約
・・・メシアはダビデの家系から.
イザヤ書7：14　処女から生まれる.
イザヤ書11：1　メシアはダビデの家系から.
イザヤ書40：3　先駆者（洗礼者ヨハネ）によって紹介される.
イザヤ書53章　受難のメシア.
ミカ書5：2　ユダ族からメシアはでる．ベツレヘムで生まれる.

世界の基の置かれる前
エペソ 1：1～6

Ⅰ無垢の時代：アダム エバ
Ⅱ良心の時代：カイン アベル
Ⅲ人間による統治の時代：ノア セム ハム ヤペテ
Ⅳ約束の時代：アブラハム イサク イスラエル
Ⅴ律法の時代：モーセ ダビデ ソロモン

初臨・誕生 → ◆福音の三要素：十字架 → 葬り → 復活 → 昇天

聖霊降臨

① 空中携挙
Ⅰテサロニケ 4:16～18
キリストにある死者が、最初によみがえり引き上げられる
その時生きているキリスト者もともに引き上げられる

② 再臨
Ⅱテサロニケ 1:6～8
ハルマゲドン
ゼカリヤ 14:4
オリーブ山

Ⅵ 恵みの時代　艱難時代（7年間）　Ⅶ御国の時代（千年王国）

白い御座のさばき
黙示録 20:11～12

新しい天と新しい地
黙示録 21:1～5

十字架以降、恵みによる救い

この時代には救いについて明確な啓示が与えられ，救いの恵みが全人類に及んだ．救われた者は神の前に義とされ，崇高な特権にあずかり，恵みの原則に基づいて生活することができる．

携挙によって、世の光であるクリスチャンが地上からいなくなるため，暗黒時代となる．

この時代にはサタンが縛られ，キリストの栄光ある臨在のもとで完全な政府が打ち建てられ，全地が実り豊かになり，神の栄光が全世界に満ちる．

「恵みの時代」に生きる私たちの使命
① マルコ12:30　→　ヨハネ4:23，24
② マルコ12:31　→　ヨハネ13:34，15:12，15:17

旧約聖書の時代　　新約聖書の時代

● 歴史区分の説明

Ⅰ 無垢の時代　Ⅱ 良心の時代　Ⅲ 人間の統治による時代　Ⅳ 約束の時代　Ⅴ 律法の時代　Ⅵ 恵みの時代　Ⅶ 御国の時代
（別紙：ディスペンセーション区分表（ フルクテンバウム先生セミナーテキストをもとに作成)を参照

※ 神は御自分の真理を一度にではなく，漸進的に啓示された.
人類歴史の各区分において，神からの啓示の質と量が異なっていたため，
人間の神に対する責任の内容も異なっていた.

2016年9月25日　H.S.